

けいさんピラミッド で行う計算

	各 5 枚	計 算	例
た	A ねずみ	くりあがりなし	$3 + 1$ $4 + 5$
し	B うさぎ	くりあがりあり	$5 + 6$ $7 + 4$
ざ	C パンダ	くりあがり・十何たす何	$11 + 3$ $12 + 7$
ん	D ライオン	大きな数・くりあがりなし	$20 + 3$ $23 + 10$ $10 + 30$ $70 + 29$
ひ	E ちょう	くりさがりなし	$9 - 3$ $3 - 1$ $10 - 4$
き	F てんとう虫	くりさがりあり	$13 - 6$ $11 - 5$
ざ	G くわがた	くりさがり・十何ひく何	$14 - 3$ $18 - 11$
ん	H かまきり	大きな数・くりさがりなし	$33 - 10$ $72 - 40$ $23 - 20$

※ DとHは筆算でできればよい、と考えることもできます。

1年生の暗算（たし算ひき算）が十分にできていないお子さんが筆算の学習（2年生以降）に入ると、とても大きなハンディをかかえた状態となってしまいます。これは、「 $4 + 2$ 」「 $9 - 5$ 」「 $6 + 8$ 」「 $15 - 9$ 」などの暗算ができていることが、筆算の前提条件であるからです。

① 指を使って計算しているお子さん

「 $4 + 2$ 」は両手の指を使えばできます。でも、「 $6 + 3$ 」はとてもやりにくいです。「 $6 + 8$ 」も「 $15 - 9$ 」も、両手ではできません。

② さくらんぼ計算をしているお子さん

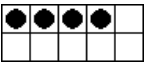
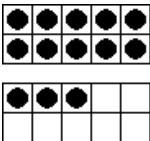
「 $6 + 8$ 」や「 $15 - 9$ 」をさくらんぼ計算でやっていると、時間がかかるし、ノートにそれを書く場所もありません。

こうしたお子さんの場合は、指導者が丸図を書いて数えさせるなどの補助が必要になります。でも、これは結構時間や手間がかかるし、お子さん自身も「自分の力でできた」という実感を感じにくいでしょう。お子さんが、自分の力で計算練習できるように、指・さくらんぼ計算・丸図に代わる教具を用意した方がいいと思います。例えば・・・

A. 20玉そろばん

使い方の指導が必要ですが、使い方がわかれば自分で計算ができます。くり上がり、くり下がり計算（ $6 + 8$ 、 $15 - 9$ ）もさくらんぼ計算と同じ考え方で計算できます。

B. 丸図つき数字カード

4は 、8は 、13は  というように、数を量としてつかむ感覚を育てることは、とても大切です。このカードを使って（ひとつずつ丸を数えるのでもいいから）答えを出す、という経験をたくさんさせて、数の感覚を育てていきます。なお、数の感覚がどこまでできているかはお子さんによって違います。